

ついにニューヨーク市警の中に入った。そこでは日本とは違った議論の交わり方が行われていた。

アメリカセキュリティ視察ツアー第五弾!!

GA(ガーディアン・エンジェルズ)の活動は前回お知らせした。今回はさらに確信を突いて行く。「斬、耕平が斬る」

ニューヨーク市警・・・

前回と同じ始まりだが、前回は玄関の写真だったのに対し、今回は内部の写真である。間違いなく今では中にも入れなければ、当然写真を撮る事も出来ない場所だ。

NYPD(ニュー・ヨーク・ポリス・デパートメント)は、

全米の中で最も古く、170年の歴史を誇る。NYCでは、73〜75年の間に2万8000〜2万3000人に警官をリストラした事で犯罪が急増した。

そこでハーバード大学の「キング博士」を呼び、「ブローケン・ウインドウ理論」を学

んだ。

その答えが「ゼロ・トールンス」であり、それを実行するコンピュータシステムが、「コムスタット」である。

紙面の都合上、解説すると長くなるので別の機会にするとして、簡単に言えば「犯罪の事前予測」である。

コマンドコントロールセンター・・・

ここはNYPDの中にある会議室だ。(写真下)

ここでは毎月NYCの88分署が集まり、先の理論に則った会議を行う。



COMMAND CONTROL CENTERと小田氏。

アップル・アソシエーション・・・

これが会議の名前である。「前回の問題についてだが、それぞれが考えて来た解決策について発表してもらおう」議長がそう言い出し、会議

が始まる。

「なるほど、それぞれ素晴らしい解決策を考えて来たが、君の場合だとこの時はどうする？」

「これだこうします」
「それでは、この部分が問題になるのでは？」と他の分署から指摘が入る。

それぞれがはっきりと意見を出し合う。手を挙げる事もはばかれる日本人とは大違いである。

議長はそれぞれの意見をまとめる。
「OK、大体のところは出そろったが、他に意見は有るか？」

ニューヨークになったこの事。「なるほど、こういった議論を交わす事がベストな答えを導き出すとともに、問題を共有する事に繋がるのだな」

私が講師をしている時にも大変役に立つ方法である。皆さんも参考にされたし。



説明をするジョン氏。

ボリス・アカデミー・・・

さて、このコラムで書いて良いものやら、と悩みつつ書き始めてしまった。

ジョンの話の聞いている時も、所内を歩いている時も、傍らに黒人警官がいた。まあ、我々を警護していると言うより、見張っているわけだろうが。

身長2m、体重140kg、あくまでも推定だが当たらずとも遠からずのはずだ。

いつも腕組みをして、しっかりと俺たちを威圧してやがる。

「おい、お前は空手や柔道を習った事は有るのか？」
突然の私の質問に少々驚いている。

「もちろんボリスアカデミー(PA)時代は毎日やっていた」
PAについて知らない方の為に、簡単に説明しておこう。

アメリカで警官になると、必ず二年間PAに入ってから(勉強)をしなければならない。そこでの必須科目に、空手も柔道も入っている。

「お前は今でもやっているのか？」
「とても空手も柔道も好きなのだが、PAを卒業してからはやっていない」

「そうかそれは残念だったな。俺は子供の時からやっているぞ」と言うと、なんと突然組んで腕をほどき、

「そうなんですか、それは素晴らしいです！」と「Sir」を付けて返してきた。

つまり「かしこまりました」と敬語で話し始めたというわけだ。

過去にチョコッとしかやっていないブルースリー時代の

俺だが、嘘も方便と言うヤツで勘弁してもらおう。

射撃訓練室・・・

「すみません、あなたは射撃訓練を見たいですか？」
デカい体を折り曲げる様にして聞いてきた。

「勿論だ、見せてくれるのか？」
胸を反らせ高圧的に言った。

「イエッサー！」
何がツボにはまったか分からないが、ルンルンと喜びながら俺を地下に案内した。

勿論、視察団皆がついて行ったのだが、スケジュールがない事だったので、案内役のK氏は戸惑っている。しかし、他の皆さんは、生の射撃が見れる事で大喜びしている。

残念なのはオフレコ(ここで喋っているが)の為、写真が無い事をご了承頂こう。

マシンガン登場！・・・

とは言ってもさすがにリボルバーやコルトあたりを出して来ると思っていた。

「そんなやつなら撃った事は何度も有るぞ・・・」

とブツブツ言いながらついていったが、なんとこいつ、も

ここで意見が出れば、再度その意見について議論が始まる。

次の議題へ・・・

「では次に現状の問題点について話そう。何か問題が起きたところは有るか？」

「はい、このような問題が起きました」
「その時、君はどうしたのか？」

「こういう風に対処しました」
「なるほど、他の対処法を考えた人はいるか？」
「はい、自分ならこういう風にします」

この様な議論が続けて行く。仮に問題が解決していたとしても、もっとベストな解決策がなかったのか、徹底した話し合いが進められる。

読まれて感じた方も多いと思うが、議長は答えを出しはしない。答えを出すのは参加している分署の人間自身が出す。議長はそれがスムーズに運ぶ為の進行役でしかない。

ジョン・ロアーン・・・

説明をしてくれたジョン氏によると、その結果、ジュリアーニ市長が掲げる安全な街

の凄太つといマシンガンを持つて来た。
さすがの自分もこれには驚いた。

「皆さん下がって下さい」
俺たちは後ろの見物席？に下がった。

「いえいえ、あなたは前に来て下さい」
と俺を手招きしたではないか！

「え、俺に撃たして欲れるの、マジ、やった〜！」
と小躍りして近づきマシンガンに手を伸ばした。

「な、何をするのです!?」
「何って、早く撃たせるよ!」
「とんでもない事を言わないで下さい、このマシンガンをあなたに触らせただけで、私は首になってしまいますよ!」

横で見ただけですから」
と2mの大男が半ばそかいている。
その姿に吹き出しそうにならして、頂こう。



なかの こうへい
1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などでの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたり、パチンコ業界の全てを研究しつつ、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広く伝えるべく活動を行っている。



記事に関するお問い合わせはA・P総研まで Tel.03-3202-0971